



マイクロレシコ[®]



ポリプロピレン樹脂の新しい可能性を追求

タンパク質
低吸着

シャープな
液切れ

従来の
ポリプロピレン樹脂は…

問題点	原因
疎水性物質の吸着	ポリプロピレン表面に疎水性があるため
水切れが悪い	親水処理が施されているため

改良方法

- オリジナル特殊樹脂(マイクロレシコ[®])の開発(特許申請中)
- 添加剤の選択と添加率の最適化



マイクロレシコ[®] チューブ

品番	容量	参考価格(税抜)	備考
92016	0.5ml	¥1,600	100コ入
92017	1.5ml	¥1,600	100コ入

●材質/ポリプロピレン

※表示価格には消費税は含まれておりません。

※未滅菌

- 遠心強度：16000G
- 書き込みスペース付き(キャップ上部)
- オートクレーブ可(121℃ 20分)



マイクロレシコ[®] 96 ウェルプレート

品番	容量	参考価格(税抜)	備考
92018	350μl	¥20,000	40コ入

●材質/ポリプロピレン

※表示価格には消費税は含まれておりません。

※未滅菌

- サイズ：86×128×14.4mm
- 底形状：V底
- オートクレーブ可(121℃ 20分)

分析技術の進歩に伴い蛋白質・ペプチドの高感度検出が可能となっています。一方、生化学研究において試料保存や調整段階で汎用的に使われているポリプロピレン樹脂製品への蛋白質やペプチドの吸着は、実験結果に重要な影響を及ぼします。一般的には吸着を防止するために、樹脂表面に親水処理が施されています。しかし、親水処理によって液切れが悪くなり、ピペッティング操作のみでは試料液を完全に回収できないという問題も生じ、研究上の悩みの種となっていました。

マイクロレシコ[®]は、このような従来のポリプロピレン樹脂製品の問題を解決した画期的な素材です。

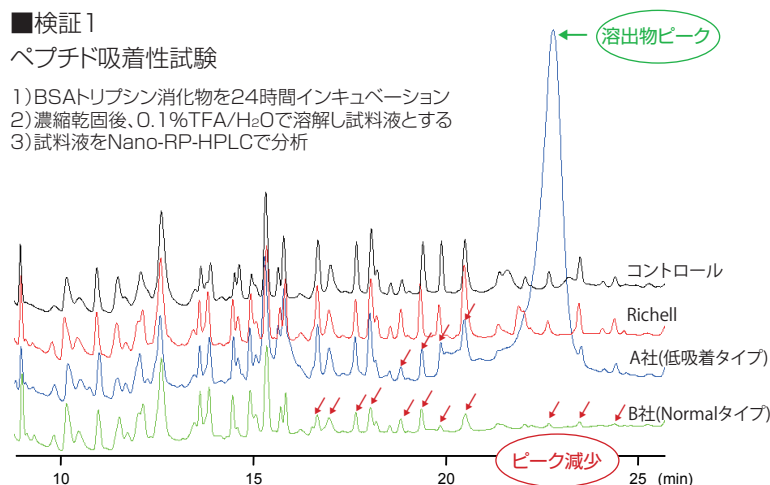
■低吸着

独自に開発したマイクロレシコ[®]により表面親水処理をすることなく、蛋白質・ペプチドの低吸着を実現しました。

■検証1

ペプチド吸着性試験

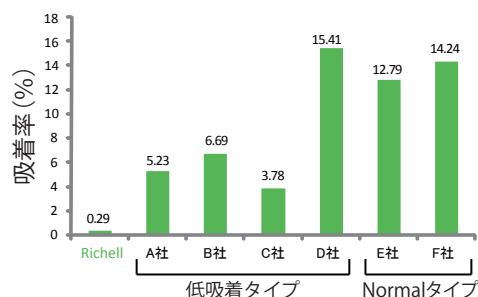
- 1) BSAトリプシン消化物を24時間インキュベーション
- 2) 濃縮乾固後、0.1% TFA/H₂Oで溶解し試料液とする
- 3) 試料液をNano-RP-HPLCで分析



■検証2

蛋白質吸着性試験

- 1) Adiponectin (0.75 ng/ml) を3時間インキュベーション
- 2) ELISA法により水溶液中のAdiponectinを定量



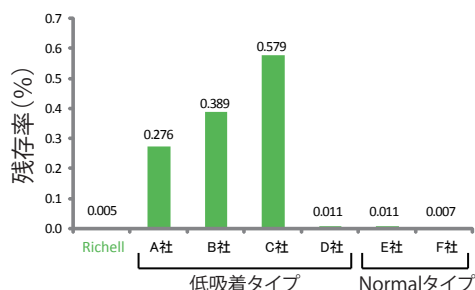
■シャープな液切れ

微量サンプルを扱うことが多い生化学実験において、試料液回収効率の悪さによる試料ロス、実験精度に影響します。マイクロレシコ[®] 製サンプルチューブは、試料ロスを最小限に抑えることができます。

■検証1

液切れ試験

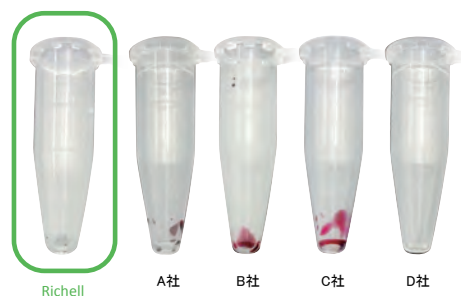
- 1) 色素 (Bordeaux S) 水溶液を1時間インキュベーション
- 2) 色素水溶液をピペッティングにより除去後、水を加え吸光度を測定



■検証2

液切れ比較試験

※他社タンパク質 Low Bind品との液切れ比較



株式会社 リッチェル

Richell Corporation

富山県中新川郡上市町正印5 15 〒930-0357

TEL(076)472-3058 FAX(076)472-3765

www.richell.co.jp

※製品仕様、梱包仕様、色、及び価格は予告なく変更することがあります。
※印刷のため色調は実物と異なることがあります。